

IV. 具体的な取り組み

聴き取り調査結果をもとに、自助組織の活動を促進するための取り組みを行った。

1. 集合研修

第3章の聴き取り調査の結果より、多くの団体が資金や人材、広報活動の不足を課題として捉えていることが明らかになった。本事業では、これら共通する課題について、集合研修を実施した。

(1) 広報研修

情報発信ツールとして団体パンフレットやホームページを持つ団体は少なく、同胞及び日本人による団体認知度は必ずしも高くない。しかしながら、各団体はボランティアスタッフなど人材を必要としている。団体に継続的に関わり活躍する人材を育成するためにも、まずは団体を知り活動に参加してもらうことが不可欠であり、そのために広報活動を積極的に行っていく必要がある。本事業を通して情報発信力を高め、団体認知度をあげるとともに長期的に人材を確保するために、広報について学ぶ研修を実施した。

日時：①2011年11月27日（日）13：30～16：30

②2011年12月17日（土）13：30～16：30

場所：①刈谷市産業振興センター

②社会福祉法人名古屋社会福祉協議会7階 小会議室

参加団体：①保見ヶ丘ブラジル人協会、Happy Family、UFCH、名古屋アフリカ移住者センター、ILLARIY DEL PERU、華豊の友

②APEAA、多文化のまちづくり

参加人数：①16名 ②3名

講師：久 由紀枝氏（デザインルーム ソレイユ）

内容：想いを届けるチラシとはどのようなものか、作成のポイントはどのようなところにあるのかなど、広報の基本的な考え方や広報物作成のコツについて

<参加団体の感想>

- ・フォントや色について学べたことはよかったです。これまで、自分たちなりにおもしろいデザインでチラシを作れてきているなど感じました。今後日本人にも知らせたい事が発生した時には今日の研修が役に立つと思います。
- ・広報物作成について学び、一歩前進となりました。
- ・視線の流れ等、普段気付かなかった事を教えてもらえて良かったです。
- ・色によってインパクトが全然違うことがわかりました。
- ・実際に見本を作ってみて、講師から意見をいただくようにすると良いと思います。

- ・チラシをつくるときはラブレターを作る気持ちでつくることがわかって、とてもよかったです。
- ・初めて研修会に参加しました。自分たちでチラシやパンフレットを作れるようになるための基本的な事を教えていただきました。
- ・ターゲットの意味を理解しました。これまで広報はある意味皆に伝える物だと思っていましたが、今日の話聞いて、目的に応じてターゲットを選んだ方が良いと学びました。
- ・自分たちだけで活動するには限度があるので、このように情報提供などの支援をしていただけることは、とても助かります。
- ・当日配布された資料から、スタッフの意欲と努力、そして私たち参加者に対する配慮を感じました。私たち参加者を重要であると思ってくれていることが分かりました。



(写真：広報研修の様子)

(2) 資金研修

各団体に共通する課題として、活動資金の確保があげられる。本研修では、NPO や市民活動における資金（財源）について、活動資金のひとつである助成金について知識を深め、将来的に必要なに応じて活用できるようにすることを目的に開催した。

日時：①2012年1月14日（土）13：30～16：30

②2012年1月15日（日）13：30～16：30

場所：①COMBi 本陣 N205

②名古屋都市センター 14階会議室

参加団体：①APEAA

②多文化のまちづくり、ILLARIY DEL PERU、Happy Family、保見ヶ丘ブラジル人協会、名古屋アフリカ移住者センター、UFCH

参加人数：①1名 ②15名

講師：特定非営利活動法人ボランティアネイバーズ 中尾 さゆり氏

内容：NPO の資金源（どのような種類があるのか）、事業の組み立てから助成金の申請・採択後の義務について

<参加団体の感想>

- ・ちょっと難しいですが、がんばって他の役員の人たちにも教えてあげたいと思います。役に立つと思います。
- ・次回は助成金申請書の書き方を勉強したいです。
- ・多くの助成金があるとは知りませんでした。今回の研修会で勉強できたことを活かせば、これからもっといろいろな支援活動ができるかもしれません。
- ・助成金について知らないことがたくさんあり、日本人でも実際に申請書を書く事はとても難しいと思います。でも、相談出来る人や場所があると心強いです。



(写真：資金研修の様子)

2. フィールドワーク

聴き取り調査より、他の外国人自助組織とのつながりが情報交換や互いのイベントへの参加など各団体の活動促進につながっていることがわかった。本事業では、県内で活動を行う外国人自助組織3団体を訪問し、活動のヒントを得るとともに参加団体間のネットワークを強化することを目的にフィールドワークを実施した。

日時：2012年2月12日（日）

参加団体：ILLARIY DEL PERU、Happy Family、名古屋アフリカ移住者センター、UFCH

参加人数：8名

訪問団体：①Centro Educacional Happy Family（豊橋市）

②フィリピン人移住者センター（FMC）（名古屋市）

③NPO 法人コリアンネットあいち（名古屋市）

内容：

①Centro Educacional Happy Family

■団体設立のきっかけ

20年前、外国籍の子どもたちは学校が終わった後に帰る場所がなく、親が戻るまであち

こちをウロウロしていた。中には非行に走ってしまう子どももいたが、そう至った原因は孤独なのではないかと考えていた。団体の設立は2001年にさかのぼる。当時、託児所の開所は早いところでも7時だった。しかし夫婦共働きで働く家庭の中には、両親ともに7時前に家を出る家庭も多く、子どもを預ける場所がなく困っていた。そこで6時30分から子どもを預けられる場所を作ったのが Happy Family の始まりである。現在は8ヶ月から12歳まで60人の子どもを預かっている。

■現在の課題

託児は有料で行っているが、保護者の中には経済状況が厳しく月謝を払えない家庭もある。しかしながら、60人の子どもに十分なサポートを行うためには、食費など支出を抑えることは難しく、月謝だけではスタッフの人件費や家賃等をまかないきれないのが現状である。子どもにしっかり教育を行うため、ポルトガル語やカポエイラの授業を増やしたいが、資金的な余裕がなく始められない。



(写真：Centro Educacional Happy Family 訪問の様子)

②フィリピン人移住者センター（FMC）

■団体設立からこれまでの歴史

1998年にDV（ドメスティックバイオレンス）の被害にあっていた一人のフィリピン人女性を救ったことをきっかけに同胞支援を始めた。その後も労災保険の未加入や給料未払いの相談など様々な相談に対応した。そのうちに口コミで支援をしていることが広まり、携帯電話が鳴りっぱなしの状態になり、対応するケースが増えたため、2000年に事務所をかまえることになった。相談にのりながらノウハウを習得し、これまでに50人以上の在留特別許可を得ることができた。現在ではケースで培った知識を活かして同胞向けのプログラムを開発してフォーラムを行ったり、政策提言や権利擁護の活動を行っている。団体はフィリピンコミュニティの中から生まれたが、団体の運営には日本人ボランティアも参加しており、フィリピン人・日本人双方の努力で今のフィリピン人移住者センターがある。

■多文化共生社会にかける想い

他の外国人自助組織と連携して日本をより良くしたい。10年間ボランティアでケースワーカーを務めてきたが、そのおかげで様々なところの外国人会議に呼ばれるようになった。活動資金の不足は悩みの種だが、これまでにつくってきたネットワークがある。多文化共生社会をつくるためには外国人自身をもっと声をあげないといけない。多文化共生社会は、外国人も幸せに安全に暮らせる社会。今、私たちはまさに多文化共生社会をつくっている。外国人自助組織同士の横のつながりを深めていきましょう。



(写真：フィリピン人移住者センター訪問の様子)

③NPO 法人コリアンネットあいち

■団体の設立

在日同胞の福祉に着目し始めたのは今から13年前の1999年。その年に障がい者を支援するため「あいちムジゲ会」が発足し、その後、介護福祉士、ケアマネージャーなどの資格を持った人たちが、福祉部門の連絡会を作った。2002年、日本で介護保険が始まったことをきっかけに、高齢者福祉事業がスタートした。10年前には「日朝ピョンヤン宣言」が出され、初めて拉致問題が明らかになった。近所に住む人たちが襲撃してくるのではないかと恐怖を感じ、娘も蕁麻疹が出た。この時に、地域に根付いた、地域の人たちと分かり合う大切さを感じ、NPO法人を作って、みんなに理解してもらおうと団体の設立に至った。2003年2月22日に、「コリアンねっとあいち」の設立総会を行った。在日コリアン向けのデイサービスは東海地区で初めてだったため、多くのメディアが取材に訪れた。

■活動にかける想い

活動9年目を迎えて、NPO団体の中では中～大規模の団体になった。これからのコリアンネットあいちは、社会的な課題を解決することを目標に活動していきたい。今日では、子どもにルーツを知らせないまま、育てている親も多い。そのためか、自分が在日コリアンだと知った時に泣く子どもも、中には自殺にまで追い込まれた子どももいる。これまで在日コリアンの、在日コリアンによる、在日コリアンのための事業を行ってきたが、今

は日本人、日本の社会と一緒にいることが大事だと思っている。「在日外国人も同じ people として、互いの文化を尊重しながら安心して暮らしている」姿を最終目標に活動を行っていきたい。これからコリアンねっとあいちがやっていきたいことは、高齢者、子ども、障害者、すべての人への全般的な生活支援。愛知県に4カ所くらい施設をつくりたい。2つめはポラムティア（ボランティアの造語）の育成。特に子どもたちが「伝えていく存在」として育つように、託児も出来たらと思っている。



(写真：NPO 法人コリアンネットあいち訪問の様子)

3. 個別サポート

聴き取り調査の結果から明らかになった各団体の固有の課題に対し、個別サポートを行った。サポートは、各団体の希望を聞きながら、長期的な視点に立ち、より効果の出るサポートを行うよう努めた。

①APEAA

■課題 活動を再開したいが、何からどう始めたらよいかわからない。

■取組提案

- ① 活動資金を確保するための情報収集を行う
- ② 事業計画を立てるための情報収集を行う
(NPO 法人のメリット・デメリット、申請に必要な書類の説明など)
- ③ 今後、様々な団体と連携して事業を行うために他団体との交流を深める

■サポートの流れ

日付	場所	詳細
2011年 11月6日(日)	メンバー自宅	団体の活動についてヒアリングを行う
11月16日(水)	メンバー自宅	団体の活動についてヒアリングを行う
12月17日(日)	名古屋市	広報研修前の座談会にて、他団体と交流を深める

	社会福祉協議会	(③)
2012年 1月10日(火)	メンバー自宅	今後のサポートの流れや内容について相談を行う
1月14日(土)	COMBi 本陣 S205	資金研修を受講し、活動資金について知識を深める (①)
2月10日(金)	メンバー自宅	事業計画の立て方について相談を行う (②)
2月26日(日)	ナディアパーク アトリウム	「外国人コミュニティフェア 2012」にて、他団体との交流を深める (③)
3月9日(金)	メンバー自宅	NPO 法人についての説明を行う (②)

APEAA は、現在活動休止中であったことから、活動を再開するための準備に取り組んだ。その際、下記の2点について要望があった。

- ・将来的に NPO 法人格を取得することを視野に入れているため、NPO 法人についての情報を知りたい
- ・活動再開後に取り組みたい事業がたくさんあるため、事業計画の立て方を知りたい

上記2点を含め、活動を再開するための土台づくりを行った。APEAA はこれまでイベントへの出展を通じて活動資金を調達してきた。しかしながら、近年は活動を休止していることに加え、社会的な経済状況の停滞により、メンバーが資金を持ち出して活動を行うことも厳しい状況であった。そのため、まずは今後活動を行っていく上で、活動資金としてどのような財源が考えられうるか、またそれらを得るためにはどのようにしたら良いかを研修を通じて学んだ。その後、実際に事業を行うための具体的な計画の立て方について話し合い、合わせて NPO 法人格所得のメリット・デメリットについて説明を行った。その際、活動を再開するためにはメンバーの増員が不可欠であるため、仲間探しを優先的に行うことで合意した。また、将来的に他団体とのもともに事業を行いたいとの思いから、研修会やイベントを通じて他団体とも積極的に交流を行った。



(写真：集合研修の様子)

②ILLARIY DEL PERU

- 課題 ① 団体の活動資金が不足している
- ② ボランティアが集まらない

■取組提案

- ① 活動資金を確保するための情報提供を行う
- ② ボランティアを募るために、団体の活動を PR するパンフレットを作成する

■サポートの流れ

日付	場所	詳細
2011年 10月15日(日)	リトルワールド	ダンスステージを見学する
10月29日(土)	豊橋市内公民館	団体の活動についてヒアリングを行う
11月20日(日)	ライフポートとよはし	「ええじゃないか豊橋和太鼓フェスタ」でのダンスステージを見学する
11月27日(土)	刈谷市産業振興センター	広報研修に参加し、ボランティアを募るために効果的なパンフレットの作り方を学ぶ (②)
2012年 1月15日(日)	名古屋都市センター	資金研修を受講し、活動資金について知識を深める (①)
1月27日(日)	豊橋市内公民館	パンフレットの内容確認と、今後活動資金を得るためにどのようなことを知りたいかヒアリングを行う (①、②)
2月26日(日)	ナディアパークアトリウム	「外国人コミュニティフェア 2012」にて、作成したパンフレットを使用して、活動を PR する
3月10日(日)	豊橋市内公民館	今後のサポートについて相談する

ILLARIY DAL PERU は活動資金のほとんどをメンバーが持ち出しで補っている。そのため、遠方でのステージ出演にかかる旅費やダンス衣装の購入費など、活動を活発に行えば行うほど、団体の経済状況が厳しくなる状況にあった。また、必要に応じてボランティアを募集しているが、集まりが良くなく、メンバーの負担が重なっていた。そのため、まずは集合研修にて活動資金源について学び、活動を継続する上でどのような資金を得ていくことが良いか考えた。さらに、活動メンバーや団体を支えてくれる人を募集するため、団体の活動を PR するパンフレットを作成した。パンフレットの作成は、集合研修で学んだことを活かし、団体のテーマカラーをベースに団体の特徴が分かるように工夫を凝らした。



(写真：民族舞踊の練習風景)



(写真：個別サポートの様子)

【個別サポートで作成したパンフレット】

* 作成部数：1,000部

イヤリー・デル・ペルー (愛知県産物)

Realemos una sonrisa a través de nuestras Danzas!!!!

ILLARIY DEL PERU

Danzas
Cursos de Folklore
Atelié de Toyohashi
Carnaval de Perseas

ダンスで笑顔をおんなにおくろう!!!

illariy.delperu@yahoo.com

VISION

ILLARIY DEL PERU de exportar crecidos con nueva tecnología, cuadros danzas y participar en los festivales y actividades culturales a nivel local y nacional. Invitar a todos los interesados a portarse a esta gran feria.

OBJETIVO

ILLARIY DEL PERU, el 29 de noviembre del 2008, se formó como una asociación independiente para difundir nuestra cultura[danzas, trajes, gastronomía, etc.] y participar en eventos locales y de esa manera conseguir un puente de tecnología a la sociedad japonesa.

ILLARIY DEL PERU Y SUS ACTIVIDADES

Desde nuestros inicios participamos todos los años en eventos importantes como:

- Toyohashi International Festival
- Toyohashi Wadaiko Festa
- Otros

イヤリー・デル・ペルーの活動

毎年4月4日(土)に、大宮イッセイビルで開催しています。秋は、豊橋市の国際フェスティバルや岐阜県フェスタなどです。

PERU, PAIS MARAVILLOSO ペルー 素晴らしい国

③華豊の友

- 課題 積極的な広報活動をしておらず、日本人、同胞ともに団体認知度が低い
- 取組提案 団体パンフレットを作成し、団体を積極的にアピールする
- サポートの流れ

日付	場所	詳細
2011年 10月16日(日)	財団法人あすて	団体の活動についてヒアリングを行う
11月20日(土)	財団法人あすて	今後のサポートについて流れと内容について相談を行う
11月27日(土)	刈谷市産業振興センター	広報研修に参加し、効果的なパンフレットの作り方を学ぶ
毎週日曜日	財団法人あすて	団体活動に参加しながら、団体メンバーとともにパンフレットの内容を考える
2012年 1月15日(日)	豊田市内のカフェ	パンフレットの内容について相談する
2月19日(日)	財団法人あすて	パンフレットの使用方法について相談する
2月26日(日)	ナディアパーク アトリウム	「外国人コミュニティフェア2012」にて、作成したパンフレットを使用して、活動をPRする
3月10日(土)	財団法人あすて	今後のサポートについて相談する

華豊の友は2004年に設立し、8年の活動実績がある。財団法人あすてに所属しており、50人のボランティアと多様な取り組みを行っており、活動は順調に行われている。活動に参加する日本人とは人と人との関係が築けているため、メディア等を通じて中国のイメージが悪化するようなことがあった場合にも偏見を持たれることはないが、そうでない日本人に対して理解を促せていないことが課題としてあがった。個別サポートでは、団体メンバーと相談し、パンフレット等を通じて、団体の活動を積極的に紹介していくことで、まじめに活動する中国人の姿を伝えていくことで日本人の理解を促すことで合意した。

■「華豊の友」の個別サポートを担当したスタッフの声

私は「華豊の友」の活動にできるだけ参加し、メンバーの皆さんと仲良くなり、少しずつ信用してもらうことで、お互い協力し合う気持ちで仕事をしてきました。たとえば、毎週末、活動場所の「財団法人あすて」へ行き、舞踏メンバーたちと一緒にダンスを練習し、名古屋にて開催された中国春節祭の開催時も「華豊の友」のメンバーとして参加しました。また、パンフレットの制作時には、「華豊の友」をより一層理解できる良いチラシを作るため、毎週金曜夜に開催されている中国語教室を見学しました。パンフレットは「外国人コミュニティフェア2012」にて配布し、宣伝効果がUPしました。“今まで、団体紹介のチラシを作りたくてもできなかった。これからはイベント時に配布できる”と

「華豊の友」の担当者が喜んで話してくれたことが嬉しかったです。



(写真：民族舞踊の練習風景)



(写真：名古屋中国春節祭の様子)



(写真：中国語教室の様子)

【個別サポートで作成したパンフレット】 *作成部数：1,000部





④ Happy Family

■課題 ① 活動資金が不足している

② 支援機関等とのネットワークが不足している

■取組提案

①活動資金を確保するための情報提供を行う

②活動に必要な機関を紹介し、ネットワークをつくる

③支援機関や支援者に団体活動を紹介するためのパンフレットを作成する

■サポートの流れ

日付	場所	詳細
2011年 10月6日(木)	Happy Family	団体の活動についてヒアリングを行う
11月24日(木)	Happy Family	今後のサポートについて流れと内容について相談を行う
11月27日(土)	刈谷市産業振興センター	広報研修に参加し、支援機関に自団体を紹介するためのパンフレットの作り方を学ぶ(③)
2012年 1月12日(木)	Happy Family	パンフレットの内容について相談する(③)
2012年 1月15日(日)	名古屋都市センター	資金研修を受講し、活動資金について知識を深める(①)
1月23日(月)	Happy Family	実際に助成金に申請するため、応募書類をともに確認し、記入する(①)
2月26日(日)	ナディアパークアトリウム	「外国人コミュニティフェア2012」にて、作成したパンフレットを使用して、活動をPRする

3月15日(木)	(電話)	子どもにかかる食費を軽減するため、フードバンクを紹介する(②)
3月22日(木)	Happy Family	今後のサポートについて相談する

Happy Family は設立以来 10 年以上にわたって託児所を運営している。各家庭の経済状況も影響し月謝の未払い等、十分な活動資金は得られず、赤字状態が続いている。また、活動を行っていく上で、子育てや教育に関して様々な相談を受けることもあるため、そうした際に連携の取れる支援機関とのネットワークを求めていた。また、近年、動物の愛護活動を新たに開始したため、そちらの活動においても資金が必要であった。個別サポートでは、託児所運営については支援に必要となる関係機関を紹介し、動物愛護活動については集合研修で得た知識をもとに、実際に助成金を申請した。また、その他の資金源として寄付を募るためのパンフレットを作成した。



(写真：集合研修の様子)

【個別サポートで作成したパンフレット】 * 作成部数：1,000 部



ONG Happy Family

A Nossa união faz a força
Consequências através da ajuda e força e a ajuda de todos amigos que se uniram a nossa causa, construímos um canal para alcançar nossos queridos ajudando-os que estão em necessidade para terem melhores condições.

Conscientização
Temos como objetivo conscientizar as pessoas que precisam criar, adotar e cuidar adequadamente o seu animal de estimação.

É não como se fosse um objeto e sim como membro da família. Pois quem compra ou adota, tem que saber que o animal vive em média de 15 anos. São como crianças que precisam de cuidados e atenção.

Adoção
Temos rigorosa na escolha de quem faz, só damos animais na certeza de que serão tratados com carinho e amor de quem realmente gosta e ama pelo animal.

Para conhecer um pouco mais do nosso trabalho, visite no Blog
www.anghappyfamily.blogspot.com
 FACEBOOK: ONG Happy Family
 Site: www.ahoppingcenter.jp.com/anghappyfamily

ONG Happy Family

We are stronger if we get together
Thanks for the kind support from our friends, we are trying to build a house for pet animals until their new owners will be found.

Activities for enlightenment
Our goal is to enlighten people who keep pets through teaching them the methods of raising, feeding and taking care of animals.

Pet animals are not "things" but members of "families". If you have pet animals (read: become owner of them), we want you to know that they live an average of 15 years. They are just like your children who need care and love.

Looking for new owners
We take much time to think through who can be best owner of animals we have found. We want to make sure that they really love animals and can take good care of them.

Please read our Blog
www.anghappyfamily.blogspot.com
 FACEBOOK: ONG Happy Family
 Site: www.ahoppingcenter.jp.com/anghappyfamily

NGO Happy Family

連携することでの力になる
私たちの思いに賛同してくださる人達の協力のおかげで、活動が出来るまでついに完成させることができました。皆様のおかげです。

啓蒙活動
私たちが啓蒙としていこうとしているのは、ペットを飼う人たちが正しい方法でケアをするように指導することです。また、動物の命が大切であることを伝えることも大切です。

啓蒙活動
ペットを飼うだけでは、動物の命を大切にすることが出来ません。動物を飼う人は、動物が平均して15年ほど生きることを知ることが重要です。彼らはただのペットではなく、あなたの子供たちと同じように愛されるべきです。

新しい飼い主を探す
ペットの命を大切に、誰かを探します。動物に良い飼い主を探し、本当に愛する人と見つけるまでには時間がかかります。

私たちの目標は、動物の命を大切にすることを教えることです。動物を飼う人は、動物が平均して15年ほど生きることを知ることが重要です。彼らはただのペットではなく、あなたの子供たちと同じように愛されるべきです。

Please read our Blog
www.anghappyfamily.blogspot.com
 FACEBOOK: ONG Happy Family
 Site: www.ahoppingcenter.jp.com/anghappyfamily



⑤多文化のまちづくり

■課題 活動資金の不足

■取組提案

行政からの委託事業等を受けられるよう、団体を紹介するパンフレットを作成する

■サポートの流れ

日付	場所	詳細
2011年 10月6日(木)	COMBi 本陣共同作業室	団体の活動についてヒアリングを行う
2011年 11月27日(土)	名古屋市社会福祉協議会 小会議室	広報研修に参加し、行政機関等に自団体を紹介するためのパンフレットの作り方を学ぶ
	名古屋市社会福祉協議会	今後のサポートについて流れと内容について相談を行う
2012年 1月15日(日)	名古屋都市センター	資金研修を受講し、活動資金について知識を深める
この間、電話とメールを中心に状況確認を行う		
2月6日(月)	メンバー自宅	パンフレットの最終確認と、今後のサポートについて確認する
2月26日(日)	ナディアパークアトリウム	「外国人コミュニティフェア2012」にて、作成したパンフレットを使用して、活動をPRする

多文化のまちづくりは活動の課題として資金の不足を挙げている。聴き取り調査より、今後は行政等から委託事業を受託して事業を行っていきたいという希望があったため、行政向けに活動を紹介するパンフレットを作成した。団体ホームページにより詳細に活動を紹介しているため、パンフレットはホームページと同様のイメージで作成し、パンフレット

を通じて活動に興味を持った人が団体ホームページにアクセスできるよう、工夫した。



(写真：集合研修の様子)

【個別サポートで作成したパンフレット】 * 作成部数：1,000部

**日本人、外国人が共に活躍できる
まちづくりを目指して**

私たちの活動は、「ラテン子ども会」として、日本社会の価値や知識を中核に在日外国人を主体としたまちづくりを進め、将来の日本社会に貢献したいと志した活動家たちにより、日本社会の発展と発展を期すことにより、多文化共生社会の実現を目指しています。

活動を通して、多文化共生社会の発展を期すことにより、多文化共生社会の実現を目指しています。

本会では、2021年秋に「多文化共生まちづくり」をテーマに、多文化共生社会の発展を期すことにより、多文化共生社会の実現を目指しています。

「多文化共生社会」の発展を期すことにより、多文化共生社会の実現を目指しています。

日本人、外国人の両者が共に活躍できるまちづくりを目指しています。

**多文化のまちづくり
(ラテン子ども会)**

代表者 三上 幸一
事務局 外国人コミュニティ推進事業
外国人教育推進事業「ラテン子ども会」
多文化共生事業

所在地 東京都杉並区高井戸1-1-1
TEL 03-6457-4644
E-mail info@laten-child.com
URL http://www.laten-child.com

「多文化共生社会」の発展を期すことにより、多文化共生社会の実現を目指しています。

多文化共生社会の発展を期すことにより、多文化共生社会の実現を目指しています。

多文化共生社会の発展を期すことにより、多文化共生社会の実現を目指しています。

**多文化のまちづくり
(ラテン子ども会)**

多文化共生社会の発展を期すことにより、多文化共生社会の実現を目指しています。

多文化共生社会の発展を期すことにより、多文化共生社会の実現を目指しています。

多文化共生社会の発展を期すことにより、多文化共生社会の実現を目指しています。

私達はこんな活動をしています

**リトルワールド
【世界遺産マチュピチュ発見100周年記念
アンデスフェスティバル】**
2021年10月15日(土)～17日(月)

「リトルワールド」は、マチュピチュの世界遺産をテーマにした、多文化共生社会の発展を期すことにより、多文化共生社会の実現を目指しています。

**【夢と希望を持って将来を考える】
2021年11月11日(木)18:00～20:00**

多文化共生社会の発展を期すことにより、多文化共生社会の実現を目指しています。

**ラテン子ども会・日本人由緒ある
100周年記念祭典
【多文化共生社会の発展を期すことにより、
多文化共生社会の実現を目指しています】**
2021年10月17日

多文化共生社会の発展を期すことにより、多文化共生社会の実現を目指しています。

外国人向けのサポート様の開校

外国人向けのサポート様の開校は、多文化共生社会の発展を期すことにより、多文化共生社会の実現を目指しています。